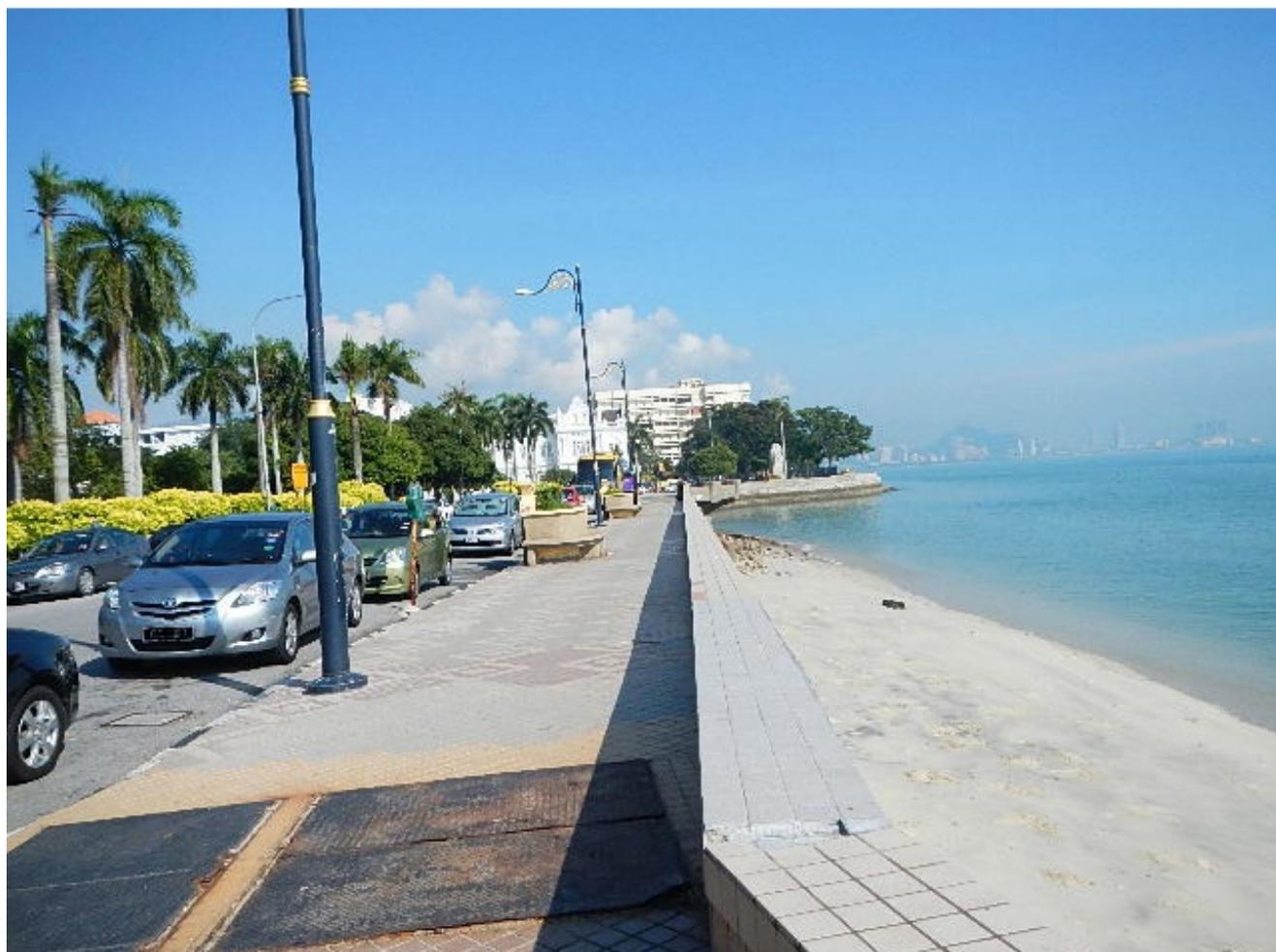


サラリーマンからリタイヤする手順



大庭夏男

会社籍中からはじめるリタイヤまでの準備手順の概要

Ver.1.1.1

はじめに

はじめに 1

はじめに

今から3年前の51歳のとき、私は勤めていた会社のリストラに遭い会社都合退職しました。その後トライした再就職は希望する条件の会社が見つからず、その後の52歳で再就職活動も中止し、リタイアメント生活を開始することにしました。

会社をリストラで退職したけど再就職先が見つからない。これは昨今よくありがちな失業物語のひとつですが、このリストラ退職は、私にアーリーリタイアという新しい生活を運んで来てくれました。私がこのように転進でき、リタイア生活の軌道に乗れたのは以前から次のようなことをしていたからだと思います。

1. 35歳のときからいずれは会社を辞めて独立したいと考え、その準備を始めていました。
2. サラリーマンの頃から節約に励み、貯金を増やしてきました。
3. 家族には定年前に会社を辞めることは言い続けてきました。
4. 会社のリストラをリタイアする動機にしました。
5. 再就職支援会社が私に実施した適性テストで、私は一人または少数人数での仕事に向いていると分かりました。

私がリストラに遭ったときには、実はまだリタイヤするとは決め切っていませんでした。リタイヤすることも視野には入っていましたが、まだ他にも選択肢はあるとも考えていましたので、会社を辞めてからは自分の専門が活かせて、しかも週に3日程度の勤務を求めて再就職先を探しました。しかしこの条件に合う仕事は結局見つからなかったのです。

他には、以前からやりたかった家具職人になることも考えました。以前から漠然と家具を作って売ってみたいと思っていたからです。しかしこれもよく考えてみると、資金と技能が追いつかないことが分かり諦めることにしました。

そんなふうにくいつかの職業を考えたあげく、最後に「リスクの少ない小事業を自分で立ち上げよう」という具合に流れてたどり着いたわけなのです。これだったら資金はかからずリスクも無い、収入は自分のお小遣い程度を得ることぐらいを目標にするビジネスをひとりで始めるということです。収入はほぼゼロになるだろうから、生活は貯蓄の取り崩しで生活しなければなりません、このことは既に大丈夫な見通しはついていました。

少ない収入とたくさんの自由な時間を使って今までやりたかった事をする。「結局リタイヤに落ち着いてしまったか」とホッとする気持ちと合わせて、何だか諦めに似た気分も漂っていましたが、私のアーリーリタイヤ生活はこんなふうが始まったのです。それから約2年が過ぎようとしています、毎日の生活は楽しく充実できています。

私のリタイヤ生活がうまく軌道に乗った理由は、将来に会社を辞める準備をしていたからだと考えています。準備そのものは独立して起業するためのものでしたが、それがそっくりそのままアーリーリタイヤメントにも適用できたから、うまくリタイヤ生活に入り込めたと、私はそう思っています。もし、これらの準備をしていなかったら私のリストラ後の生活は今とはまったく違ったものになっていたでしょう。

そんなリタイヤメント生活を始めてから立ち上げたブログに日記には、毎日多くの読者が検索エンジン経由で訪れてくれました。その検索キーワードを見ると、失業を心配する人、会社を早く辞めたいと思っている人、将来の生活資金がいくら必要か悩んでいる人、会社を辞めたら何をするか探している人、このような人達が大勢いるのだと分かりました。

この悩みに対し、もしかしたら私が辿ったアーリーリタイヤメントのアプローチが何らかの参考になるかもしれません。ブログは日記なので、様々なテーマが順不同で記事になっているため、一読してリタイヤまでの色々な判断や準備の要領などが分かり難いかと思います。それでこの本は、上記の私のブログに散在するテーマを整理しなおして、私が行ったリタイヤまでの手順をまとめてみました。

「リタイヤまでの手順」と書いた訳は、私はリタイヤメント生活の楽しさをこの本で書くのではなく、リタイヤまでの地図のようなものを作りたいと思ったからです。リタイヤメント生活では得るものもありますが、失うものも少なくないです。手軽にリタイヤは薦められません。

リタイヤメント生活を楽しめる性格の持ち主も、まったく受け入れられない性格の人もあります。今回は私が今まで約2年間に体験したアーリーリタイヤメント生活を基に執筆し、内容はリタイヤメント生活を賛美しないよう、できるだけ中立的な立場で、判断や準備の方法を中心に書きました。その概要説明版がこの本です。ただ、この本に書くには冗長になりそうことは、もう少し詳しい説明で、後続の本で書いてみようと思っています。

これらの本で紹介することが、サラリーマンを続けようか、リタイヤしようか悩んでいる人の参考になれば幸いです。

もくじ

もくじ

ページ

サラリーマン生活からのリタイヤとは 6

リタイヤメント生活がうまくいくための大事な要件 8

会社を辞めて何をする？にかかわる

リタイヤのメリットとデメリット 11

「何をするか」を考えるときに、合わせて考えたい

自分の性格 16

リタイヤするための手続きについて 17

リタイヤまでの手順 19

さらに詳しい説明について 20

サラリーマン生活からのリタイヤとは

サラリーマン現役時代の生活サイクル

サラリーマン生活からのリタイヤとは

「リタイヤ」することは会社員だけでなく、自営業者も仕事をリタイヤすることはありますが、この本では「会社員が勤めている会社を辞め、預貯金や手持ちの現金と年金収入だけで生活をする」という範囲について書くことにします。理由は残念ながら私にはそれしか経験が無いからです。まず最初にリタイヤすると生活はこんなふうになるでしょう、という説明をします。

サラリーマン現役時代の生活サイクル



サラリーマン現役時代には上の「サラリーマン現役時代の生活サイクル」の図に描いたように、会社から受け取る仕事の対価としての給料があり、その給料で生活するので、また仕事ができるから給料がもらえる。というように仕事、収入、生活が切れない関係となっている。これが現役時代のイメージです。現役時代に

はきっと貯蓄が少なく、子育てなどで出費も多く、この方法でなければ生活が成り立たないでしょう。効率よく多額の収入を得るやり方です。

それに対して、以下の「リタイヤ後の生活イメージ」の図に描いた概念をここではリタイヤ生活ということにします。

リタイヤ後の生活イメージ



この図で表すようにリタイヤ後の生活は仕事や収入のための活動にも関わってはいませんが、仕事や収入が無くても生活の歯車は貯蓄と年金で回すことができるという生き方です。また、仕事と収入は別々で仕事から収入を得なくても構いません。仕事はそれが楽しければ無給でもやる。それとは別にネットで稼ぐ。だけど稼いだお金は生活費以外で使うことにする。これがここで言うリタイヤ生活で、私がやっている生活のイメージです。

リタイヤ生活は「仕事」と「収入」と「生活」を互いに独立させて、たとえば仕事が無くても、収入が無くても、それらに関係なく生活

できるようにすることです。ですから生活費は自分の貯蓄と年金だけで賄えることを第一の目標にして、その上で楽しく生活するために仕事をすることや、収入を得てそれで遊ぶことを考えることを次の目標にします。

このようにリタイアメント生活のイメージを決めても、実は様々なバリエーションのリタイアメント生活があります。上述したように貯蓄と年金で静かに暮らすこともできるし、趣味を活かして収入を得ることをめざすのもいいでしょう。会社で仕事は続けるけど、その収入は全て自分のお小遣いにして、生活費に影響なく思う存分遊ぶのもリタイア生活のひとつと見てもいいのではないのでしょうか。なぜならその仕事はもはや自分や家族の生活のために働いてはいないからです。

リタイアメント生活がうまくいくための大事な要件

リタイアメント生活がうまくいくための大事な要件

リタイアメント生活がうまくいくための大事な要件

リタイアすることを想うと、第二の人生の夢が膨らみますが簡単にはそこに行けません。いくつかの超えなければならない障壁があります。それを超えない、あるいは気がつかないうちにサラリーマン生活を辞めてしまうと、やがて不幸になる確率は大きくなるでしょう。リタイア生活がうまくいくための大事な要件として私が体感したことは次の5つです。

1. リタイア後の生活費が確保できていること
2. リタイアしてからの「やること」が見つかっていること
3. リタイアすることへの家族の理解が得られていること
4. リタイア後に、心のよりどころがあること
5. 自分の性格に合ったリタイア後の生活を選ぶこと

上記5つを見ると、どれも一筋縄では行かず、達成には時間がかかりそうです。私の場合は回り道しましたので17年もかかってしまいました。

私のした回り道とは、最初の頃はリタイアでなく20年間かけて独立起業を準備するつもりだったということです。当初は上記5項目にある「リタイア」の文字を「独立起業」に置き換えた準備に20年間かかると考えていたのです。それが勤めていた会社

のリストラによって3年早くなり、起業内容をリスクのほとんど無いような、しかも大きくは儲かり難いネットビジネスを選んだので、一応起業したことにはなるけれど、実態はリタイアメントと変わらないセミリタイアメント生活者ということになりました。私にはこのような経緯があるので、私の起業のためにしてきた準備はそのままリタイアメントに当てはめることができたわけです。

リタイヤ後の生活費はどうしたら分かる

この5項目の中で最大の難関は、最初に書いた「リタイヤ後の生活費が確保できていること」でした。これは人によって異なるとは思いますが、よほどの大金持ちでなければ最難関で達成までに長い年月が要ると思われれます。さらにそもそも「いくらあればリタイヤできるのか？」という金額は漠然としています。

しかし何とか必要なリタイヤ資金はいくらであるかを見積もらなければなりません。しかも他人の例ではアテにならないので、自分の家庭の生活費で見積もらなくてはならないのです。自分でいろいろ仮定を作りながら「確からしいシナリオ」を練り上げて、それを基にして将来生活費を計算してみるわけです。私はこれを何回も見直してはまた計算してみるという繰り返しをしました。こうやってだんだん実際的なプランが練りあがっていくのです。

でも実際には、定年退職してリタイヤする人はそんな面倒な計算をすることはあまり無いのではないのでしょうか？それでもリタイヤ生活は概ねできているから、なんとかなる、ということでしょうか？

リタイヤ後の生活をシミュレーションする

多分、毎年の生活に必要な資金の100倍くらいのお金を貯めた人はそういうリタイヤ後のプランを練ること無しに、楽観的なリタイヤが可能なのだろうと思います。仮に年300万円の生活費が要ると思っている人なら100倍では3億円です。2億円でも楽観的リタイヤは可能だという気がします。1億円にも満たないお金しか貯まっていなかったら、こんなリタイヤはできないのではないのでしょうか。しかし確からしいシナリオで生活のシミュレーションができていいるなら、あまり多くない貯蓄でも無理なくリタイヤ可能となる可能性があります。

私の場合は51歳の時の会社のリストラで失業し、再就職をめざしましたが、約半年後の52歳からアーリーリタイヤメント生活に踏み切りました。アーリーリタイヤすると公的年金受給見込額は格段に減ります。しかもその年金収入があるのは私にとってまだ10年も先です。貯蓄も1億円には遠く及びません。収入がほとんど無いので今後の貯蓄も期待できません。こんなボロボロと思われるかもしれない資金状況で私がリタイヤする決心がついたのは、生活費のシミュレーションをずっと長い期間練っていたからです。

このシミュレーションは、単にパソコンで表計算ソフトで作成した表の数字をいじくっていたばかりでなく、会社を辞める前から無収入になっても生活が楽になるように生活費の節約に取り組んでたということも加わっています。これが効果を発揮して少ない家計で生活できるようになっていたのです。52歳でアーリーリタ

イヤしても大丈夫だと自信が持てました。

会社を辞めて何をする？にかかわるリタイアのメリットとデメリット

会社を辞めて何をする？にかかわるリタイアのメリットとデメリット

リタイアのメリットとデメリット

会社の定年退職を機会にしたリタイア、あるいはそれよりひと足先にリタイア生活を決め込む「アーリーリタイア」は、今までできなかった生活を実現できる可能性を秘めています。

それを簡単にイメージするなら「今後生活するための蓄えはできたとし、会社生活も張り合いが無くなってきた。ここらで会社を辞めて、悠々自適に生きてみよう」と考え、収入や義理に縛られない生活が可能になるということです。

今まで会社に勤めていたためにできなかった活動にチャレンジすることもできるでしょう。特にこれと言って何もせず晴耕雨読で静かに暮らすこともありだと思えます。しかし定年退職してもサラリーマンを辞めないという選択肢も依然残っています。

将来をどのように選択するかはまったく個人の自由ですから、おそらくリタイアメント志願者の多くが、引き続きで大変だけど儲かる会社勤務を続ける価値と、資産は減るかもしれないけど一度しかない残りの人生を楽しむ価値とを、頭の中で天秤にかけるのだと思えます。

天秤にかけるものは様々な比較対象があると思えますし、その

対象物は人によって千差万別でしょう。そういう「会社を辞めるべきか、辞めるべきではないか」天秤にかける要素のうち、リタイヤすることで得られるメリットとデメリットはよく考えておかなければならないことです。

リタイヤするメリットは何かを考えてみましょう。

1. 自分が自由に使える時間が大幅に増える

アーリーリタイヤ志願者は「人生の自由時間」に憧れて、ついに会社を辞める決心をすると言っても過言ではないでしょう。会社を辞めて今までできなかったことをする、という前向きなリタイヤも、会社生活にはもう疲れきったのでもう辞める、という後ろ向きもあるでしょう。両方が混ざっていることも多いと思います。

期待どおり、リタイヤしたら自分の自由時間はかなり増えます。家族が居る場合は1日24時間の自由とはならないかもしれませんが、今まで会社に居た時間と同じくらいの時間が自由に使えるということは、まず期待どおりになるでしょう。その自由時間をどうやって使うか？が課題になるのです。

2. 収入に縛られないで自分の好きなことができる

リタイヤメント生活は、生活費が確保されている、という前提で成り立ちます。これは収入が無くて生活できることを意味しますから、没頭したい趣味や、収入は無いけどやり甲斐があるボランティア活動などを、リタイヤして得られる自由時間を使って思う存分できるようになります。勤めをしていると長期の旅行などは無理ですが、リタイヤメントなら一番条件が良い時期を選んでの大旅行や長期滞在も夢ではないでしょう。

3. 家族の介護や支援が柔軟にできる

高齢化社会となった現代では、親を介護する必要に迫られる場合が以前より増えると思います。

これも会社勤めとの両立は難しいかもしれませんが。リタイヤするひとつの理由にもなることもあります。高齢の親への支援だけでなく、共働きする子供世帯から孫を預かって、子供の生活を支援することもリタイヤしていればできそうです。それらができると家族にとっての結びつきが強くなるのが期待できる他に、介護や育児の費用が節約できるという効果も生まれてきます。

4. お金をかけない生活が容易になる

例えば上述のように育児や介護のうち、自分でできる範囲を自分で行えば外に払うお金が節約できます。普段は当たり前にお金をかけているようなことでも、自分で手作りすると「今まではこんなことにもお金を払っていたんだ」ということが分かるようになるでしょう。

自分でする時間が取れないので、時間をお金で買っていることになりませんが、この今までお金で買っていた時間を、自分の自由時間を使ってやったらお金は払わなくても済むことになります。リタイヤしてから改めて「自分でできること」を探してみると意外にたくさんあり、会社勤めの忙しい時代よりローコストで生活できる、いわゆる口ハスやDIYな生活を楽しむことができるようになれるでしょう。

5. 家族と一緒に居られる時間が増える

リタイヤの本やブログには、このことがクローズアップされているようです。今まで仕事に忙しく家族を放ったらかしにしていたお父さんが家でいつも家族と接していただけるようになる。まったく理想的な家族ができあがるということです。

一方、リタイヤするデメリットにはこのようなものがあります。

1. アーリーリタイヤは公的年金支給額がかなり減る

定年前にサラリーマンを辞める場合、これは場合により深刻なデメリットです。公的年金は毎月・毎年支払う年金保険料は、多額であればあるほど、長期であればあるほど将来受け取る年金額が多くなります。個人の年収は若い間は少なく、歳がいくとそれなりに増えますから、一番年金を肥やす時期に早く会社を辞めることは受け取る年金が大きく減ることに直結します。

基礎年金の保険料は会社を辞めても60歳まで払わなくてはなりません。その後、基礎年金部分で受け取る額は厚生年金に加入していた期間が少ない分大きく減ります。ウェイトの重い厚生年金がアーリーリタイヤで減ることのインパクトはとて大きいのです。

私は52歳でアーリーリタイヤしましたが、もし私が60歳まで勤めていた場合と比較すると、65歳から受け取る年金は年額で120万円少なくなると、年金定期便に書かれた数字が教えてくれています。実際にいくら少なくなるかはその人の年収や辞める歳で大きく違いますから一概に言えませんが、120万円の減収を65歳から80歳まで積み上げると1800万円にもなります。

更にもし私がアーリーリタイヤせずに60歳まで会社に勤めて

いたら毎月給料があったでしょう。これを上記の1800万円に加えると、まさに新築一戸建の住宅が買えるような大金を、アーリーリタイヤで逸するような計算になります。

この大金を払って「自由な自分のための時間」を買う、という決心をするかどうかが多くのアーリーリタイヤメント志願者が、頭の中の天秤で真剣に計らなければならないことです。さらに60歳で定年になっても、引き続き雇用延長や再雇用で勤めればその分は年金は手厚くなるのです。

つまり「お金あつての老後生活だ」と思えばリタイヤはなるべく遅くした方が良く、「お金よりもやりたい事を元気な間にたくさんやりたい」と考えるのなら早いリタイヤを考えるのも選択肢です。

2. 再就職が困難化する

人生には想定外のことが起きるかも知れません。万全の準備で飛び込んだリタイヤメントが頓挫して、再就職を決心しなければならないことは想定から外してはならないでしょう。リタイヤメントは死ぬまで再就職しないで済むというような保障はありません。でもしかし、リタイヤ生活が長くなればなるほど再就職は難しくなるでしょう。

こうなる理由は歳を重ねると融通がききにくくなる他に、リタイヤして生活していると、その間に離れていた集団生活や会社生活そのものに再適合し難くなりがちだからです。リタイヤ生活に身も心も慣れきってしまうということでしょう。もしこのような状態で再就職が困難になると、努力は非常に大きくなるでしょう。これはリタイヤする上での大きなリスクと言えます。

3. 一人の時間を持つことは意外に難しい

メリットのところではリタイヤは家族と結びつきが強くなると書きましたが、ここでは同じことがデメリットとして書かなければなりません。これは矛盾ではなく両方の場合があるわけです。

「家族と過ごす時間は長い方が良いけれど、やっぱり自分ひとりの時間もすごく大事」しかしリタイヤメントのホームグラウンドはまさに自宅です。そこには家族が居ます。思うように自分ひとりの時間が取れないかもしれませぬ。会社帰りの一杯も無くなり、居心地の良い会社の机もありません。逆に単身者のリタイヤメントでは、完全一人になってしまうリスクがあるかもしれませぬ

ん。

以上のメリットとデメリットは多くのリタイアメント志願者に共通的に直面する項目だと考えています。特にデメリットについては安易に「何とかなる」とか「やってみなければ分からない」と思わないで、それぞれに実現できる対策か、最低でも解決の見込みを持たないと将来に困難に直面してしまいます。

「何をするか」を考えるときに、合わせて考えたい自分の性格

「何をするか」を考えるときに、合わせて考えたい自分の性格

「何をするか」を考えるときに、合わせて考えたい自分の性格

私はリタイヤしてしまってから気がつきましたが、幸いにも私の性格はリタイヤメント向きでした。リタイヤ後の「やりたい事」は夢を追いかければ見つかるのですが、実際は毎日そればかりやっているわけではありません。

気分が良くていっぱいできる日もあれば、気の乗らない日もあります。会社では仕事に強制力が働いているので、それで乗り切ってしまうことができますが、リタイヤメントは何をするのも自分次第ですし、収入をそれに頼ることもありませんから結局だらけてしまうこともけっこう多くあります。

何もしないで居ることが苦痛にならない性格の人はリタイヤメント生活がうまく進むと私は実感します。私はそんな性格だったので、それがよく分かりました。また自己満足できる人はリタイヤ生活に向いているでしょう。リタイヤしたら「今日は裏の畑をよく耕した」とか「街に出て写真を100枚も撮った」など自己満足するような生活が多くなるのです。

会社では上司や客先から「よくやった」と評価され充実感を得られましたが、リタイヤするとそれはもう無いです。もし「人から自分は必要だと思われたい」と切望する人は、ボランティア活

動などでその欲求を満たすことを主眼に置いた方がいいでしょう。

私のリタイヤ後は、ネットでできる活動で少々の収入を得ることにしました。その収入はとても小さいのでビジネスと呼ぶにはゆる過ぎますが、その収入で海外旅行をするというような「セミリタイヤ」スタイルを続けていくことにしました。ネットビジネスであれば海外旅行中でもネットが使えるので、時間にも場所にも囚われない生活ができると、私は期待しています。

リタイヤするための手続きについて

リタイヤするための手続きについて

リタイヤするための手続きについて

1. 家族の理解を得ること

安定した収入があったサラリーマンを辞めようと考えているとき、家族に「将来は定年より前に会社を辞める」「会社を辞めたらこんな事をする」これを何度も何度も話して納得してもらわなければなりません。

私の場合は幸いにも説明して納得させる家族とは妻と子供だけで済みましたが、これも人によって大差があります。同居の家族だけでなく、親戚なども含めて、自分のリタイヤをしつこく反対する可能性がある人物には多分説明して納得することが要るでしょう。他人であれば反対されても被害はあまり大きくないでしょうけど、親や親戚がもし反対派に残ることになると、リタイヤしてから精神上深刻な事態にならないとも限りません。このような理解活動にもある程度長い期間がかかるのです。

2. リタイヤのベストタイミングを探ること

いつ会社を辞めてリタイヤするべきか。タイミングを見るべきです。会社都合退職は会社を辞める最良の機会だと私は思います。一番オーソドックスな定年退職という退職方法は、かなり多くのリタイヤの障壁を自動的に取り払ってくれる効果があります。家族も「定年ご苦労さま」と言ってくれるでしょう。

ただし今後はもし60歳で定年退職しても、公的年金生活までの空白期間が生まれますから、60歳定年退職でも生活費をそうするかという課題が目前にぶら下がります。「60歳の定年退職の後はリタイヤすることでよいか？」と考える必要性は今後だんだん大きくなるでしょう。

もし定年前のアーリーリタイヤを希望するなら、リタイヤするきっかけとして会社都合退職がベストだと私は経験上実感します。多くの場合、会社都合退職の機会は会社の行うリストラという形で現れるでしょう。リストラはまだ勤務したい人には最悪な出来事ですが、アーリーリタイヤ志願者にとっては最高の機会です。なぜなら退職条件や退職後の元同僚との繋がりなどが自己都合退職のそれらより格段に良くなるからです。まだ勤めなければならぬ人達にリストラは悲劇であることは言う間でもありませんが、アーリーリタイヤ志願者にとってのリストラは円満退職につながるでしょう。

会社に勤めているうちから始める、生活の練習

会社に勤めているうちから始める、生活の練習

会社に勤めているうちから始める、生活の練習

リタイヤしてやりたい事の構想も将来生活費も検討したら、会社勤務を続けながらも実行可能なことは開始してみると、見逃していたことを発見できることがあります。

会社を辞めてから始めようと考えていたことでも、会社に居ながらできる部分はあるでしょう。生活費は予算に沿ってうまく実際の家計はついてくるかどうか、立てた計画に無理がないのかまだ給料をもらって生活しているうちから、辞めたつもりになって実際に家計を管理してみると見落としなどが発見できます。このようなリタイヤメント生活の試行は、備えを完璧に近づけることができるし、家族に対して安心させることにもつながることになります。

私が会社に居ながら行った「リタイヤの練習」は、計画どおりに家計が進むかどうかのチェックと、ネットでブログを始めたことでした。

会社に勤めて給料をもらっていても、将来いつまでにいくら貯蓄するかを決め、残りのお金で生活するように計画を立てることはできます。課題ははたしてそううまく行くかどうかです。実際に子供が浪人したり、高い研修会に参加したりという想定に無かった出費が出ました。あまり厳しい予算を組むと妻が怒り出すこともありました。そのような経験をしながら、将来の出費はさらにどんなものがあるのかを連想し、家族が無理なく生活できる

ための予算を調整していくことができました。

このような経験はまだ私が勤めている間でしたので、資金が不足しそうなら退職を延ばすこともできます。しかしリタイヤしてからこんな経験をすると自分も含めてどの家族にも悪い影響が出ることは容易に想像できるでしょう。

そういう意味で、リタイヤする前に「練習期間」という試行を行うことは大事なことです。

リタイヤまでの手順

リタイヤまでの手順

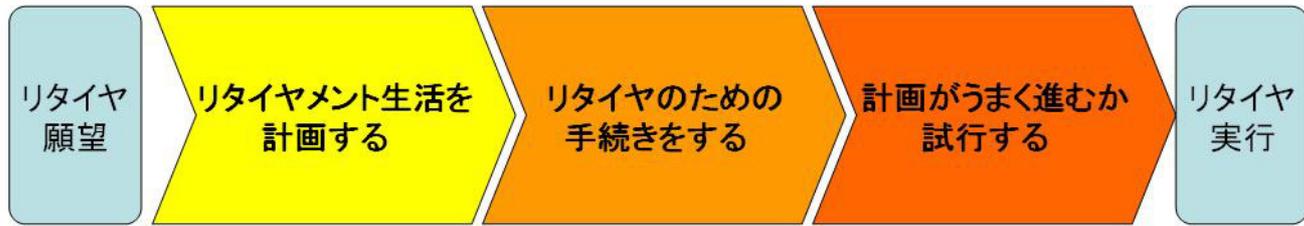
リタイヤまでの手順

この本で言いたいことは、リタイヤをすべきか、しない方がよいか、よく考えてから行動して欲しい、ということです。そのためにはリタイヤ後の自信のある生活計画を立てた上で、実際にリタイヤするときに欠かせない手続きを踏んで進める、ということが非常に重要です。

手順とは、リタイヤ後の生活計画をたてることが最初の目標で、家族にそれを打ち明けて理解を得ることがその次の目標になるというような、やることの順番です。もし将来の計画も何もないうちに「俺は近々会社を辞める」と言い出したら揉めるのは目に見えています。「この計画を立てたので辞めても十分生活できると考えている」との説明をして、家族に理解してもらうようにしましょう。

会社を辞めたいと願望が生まれてきてから、リタイヤを実行するまでは手順をつくり、順に着実に進めると抜けが起き難くなります。この手順に沿うことは面倒ではありますが、面倒を避けて早まってリタイヤしてしまうと失敗したらその後は再就職が難しいでしょう。取り返しの苦労を思うと多少面倒でも手順を踏んだ方がいいと思います。

リタイアメントへの手順



この「リタイアメントへの手順の図」は、私がリタイアに至った経験を手順にしたものです。

さらに詳しい説明について

さらに詳しい説明について

リタイヤメント生活を計画するとき「何についてよく考えたら良いか？」これが問題です。この問題は難しいですが「こうしたらどうか」という推奨をしながら別の本で説明したいと思います。私は、上記の「リタイヤメントへの手順の図」にある各ステップで以下のような事をやってきました。

各ステップで行うこと



1. 今後の大きな出来事がいつ起きそうか書き出す
2. リタイヤして何をするか目論見をたてる
3. 1. 2を元に将来の家計予算を見積もる
4. 貯蓄と年金で見積もった家計予算が賅えことを確認する

1. 家族にリタイヤする意思と、リタイヤ後の計画を説明して理解を得る
2. 会社を辞めるタイミングを見極める

1. 立てた家計予算で無理なく生活できることを確認する

それぞれどのようなことを考え、何をどう判断したかについて、別の本でもう少し詳しく書いてみたいと思います。

ただ、上述した内容も、別の本で書くことも、私が推奨できりことだと考えていることなので、万人に適用できる保証がありません。

せん。あくまで私という個人が行った1種類だけのアーリーリタイメントのアプローチですから、それを踏まえて、ご自分で考え判断してください。